

■お詫びと訂正

with NEO 2023 年秋季増刊

『目的・基準値・進め方がわかる 新生児の検査 A to Z』におきまして、
下記の内容に誤りがございました。


ご執筆の先生ならびに読者の皆様に、謹んでお詫び申し上げますと共に、
下記のとおり訂正いたします。

p247 「図 6 血液型不適合妊娠による新生児溶血性黄疸に対する直接抗グロブリン試験、抗体解離試験」

【誤】

 抗原に感作された赤血球

【正】

 抗体が付着した赤血球

正しくは、2 ページ目の通りです。

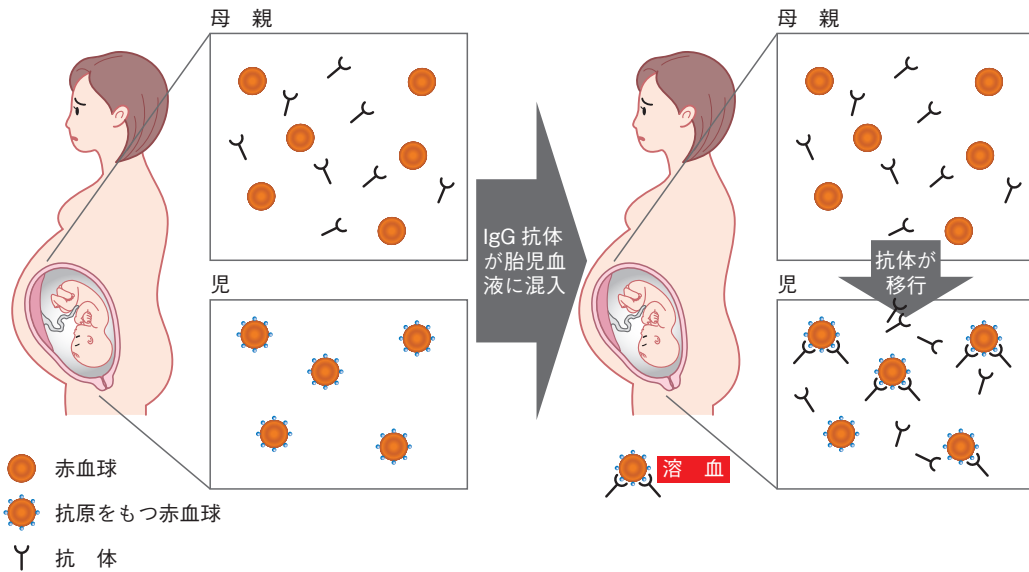


図5 血液型不適合妊娠による新生児溶血性黄疸が生じるメカニズム

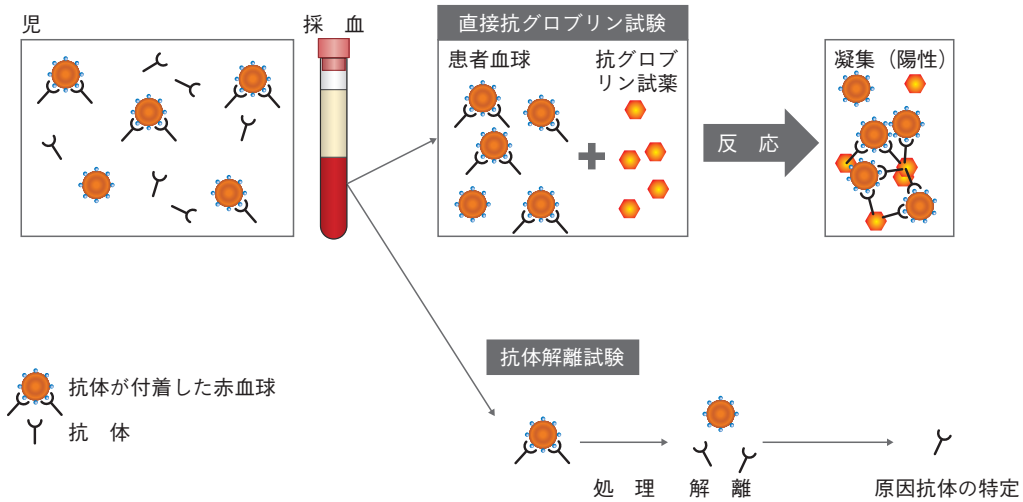


図6 血液型不適合妊娠による新生児溶血性黄疸に対する直接抗グロブリン試験、抗体解離試験

そこで、**図7**に示すように患児の血清（血漿）を用いて、同型成人赤血球と抗グロブリン試薬を反応させ、凝集があれば陽性と判断する。血清にある抗体に赤血球を加え、間接的に検査するため「間接」抗グロブリン試験と呼ぶ。患児血清を何倍か希釈し、反応を調べるため、検査結果は「間接抗グロブリン試験〇〇倍陽性」と記載される。

赤血球膜の異常による溶血は、抗グロブリン検査で陰性になる。東南アジアなどではグルコース-6-リン酸脱水素酵素（G6PD）欠損症などの赤血球膜異常症の頻度が高く、新生